洋上アルプス

NO. 24

平成9年3月5日
屋久島森林環境保全センター発行
鹿児島県熊毛郡上屋久町宮之浦1577-1
TEL 09974-2-0331 FAX 09974-2-0333

調査・研究の連絡会議
環境庁と共同開催

保全センターからヤクタネゴヨウ保護活動への協力を要請

二月二五日、保全センターと環境庁国立公園屋久島管理官事務所の共催で、世界遺産の保全に関係する地元の機関や有識者に集まっていただき、「屋久島・世界遺産等調査研究推進地域連絡会議」と銘打って一回目の意見交換の場を持ちました。

会議の趣旨は、保全センター、国立公園管理官事務所及び地元参加機関が、計画・実施している世界遺産等の保全のための調査・研究についてお互いが情報を交換し、指導助言を得ることによって、計画の一層の推進を図ることです。

会議では、管理官事務所、保全センター及び屋久杉自然館から取組みの状況及び九年度に向けての新たな計画の概要などが示されました。

保全センターでは特に、九年度に計画しているヤクタネゴヨウの永久調査プロットの調査に向けて、事前の分布調査を進めるに当たり、地元の協力を得ながら、絶滅寸前の貴重な五葉松の保護運動を全島的に進めるための協力を要請しました。

森林植生のプロットを愛子岳で設定中

保全センターが平成七年度から実施している、森林植生のモニタリングプロットの設定を、愛子岳国有林二〇四林班で実施しています。

場所の選定にあたっては、森林総合研究所暖帯林研究室の指導のもと、西部林道沿いの二林班に設定した照葉樹林帯の大プロットの比較対象地と位置付け、島北部の低標高地帯に決定しました。

このプロットは、愛子岳登山道の先、小瀬田林道沿いの世界自然遺産地域が細長く下降している標高一五〇m～一八〇mの緩斜面の照葉樹林帯にあり、比較的平坦な尾根を中心に、その両側を含む区域で、面積は〇・七㌶です。

調査は、二月の中旬から実施しており、終了後は、この紙面で、結果の概要をお知らせする予定です。

岳参りの歩道を復元

白谷雲水峡で実施していた楠川歩道の整備がこのほど終了しました。

この歩道は、年々増加傾向にある入林者の安全確保と、歩道崩壊の防止、樹木の根系や植生の保護を目的に、昔から利用されていた岳参りの歩道をモデルとして、自然石を利用した工法で復元したものです。

この歩道整備は、重要自然維持地域保安林整備事業として平成七年度から実施している、るもので、町道から辻峠までの三・二kmはすでに完成しており、今回の三本杉から町道までの区間〇・五kmと合わせて三・七kmが完成しました。

屋久島の植物

イスノキ
（まんさく科）

暖帯から亜熱帯に分布し、屋久島では照葉樹林帯の代表的な有用樹で、直径一㍍以上の大木になる。

生け垣にも利用され、葉の表面にしばしば大きな丸い虫瘤を生じる。

三月頃に、葉の付け根から鮮紅色の総状花序を咲かせる。材は極めて重硬で、床板、床柱、算盤、楽器、鎌などの柄、家の構造材等に賞用される。

最近の動き

第五回世界遺産地域連絡会議
二月一三日鹿児島市で、八年度事業実績や入山者の増加に伴う河川の汚染問題等について討議。

林木育種センター ジーンバンク事業
（ヤクタネゴヨウ）二月一八日～二一日、平内地区等の国有林で、つぎ木用穂木を四五個体から採取。
（著名ヤクスギ）三月一一日～一三日、弥生スギなど七個体から保全センターと共同で穂木採取を予定。

災害復旧治山工事着手
昨年九月の台風二一号の集中豪雨による土石流で被害を受けた三箇所（宮之浦と栗生地区）について、三月五日の入札を経て復旧工事を開始。

編集後記

屋久島に来て四回目の冬を迎えたのだが、なんだか例年よりも雪が少ないように感じ色々な人に聞いてみた。

二月二日ヤクスギランドで予定されていた雪まつりは、今年初めて中止になったという。

二月中旬には職員が縄文スギまで行ったので聞いてみると十㌢から二十㌢くらいだったという。

二月下旬には、山頂部で五十㌢で、今年は特に少ないという人もあった。

やはり今年の積雪は少なかったのかと確信し、最後に冬山登山のスペシャリストに聞いてみたら「二月十八日で山頂部は約一㍍でヤクザザがかくれていましたよ。」といわれ、例年よりどうですか、という問いに「この時期の山頂部は例年と変わりません。」と答えが返ってきた。

やはり屋久島は「洋上アルプス」ということか。（大）